

第3回委員会意見概要及び伏見区基本計画（素案）の修正点について

0 計画全体について

＜第3回策定委員会での意見＞

- ・継承すべきことは継承し、追加すべきことは追加し、やめるべきことはやめることで**メリハリをつける**べき。

＜第3回策定委員会後の意見（意見用紙による）＞

- ・「行政単独の取組」、「行政＋民間の取組」、「民間単独の取組」の整理し、**特に「行政＋民間」は具体的に基本計画に盛り込むべき**である。（→例えば、外国籍居住者の支援なら「民間委託」、「ボランティアの募集」など、商業の開発、集積なら「PFI事業」、「事業提案コンペ」など、観光の支援、展開なら「観光大使募集」、「ドラマ・映画等のロケ地としての強化」【→P13の(3)－④の具体的な取組例に「ロケ撮影の誘致」を掲載】など）

⇒主な修正点

- ① **取組方針の各項目の内容をイメージしやすいよう、「具体的な取組例」を掲載**
→策定委員会、住民円卓会議、アンケート等の意見をもとに、各局等の計画、施策・事業、意見等を踏まえて選定
- ② **各主体の役割分担を5つの取組目標それぞれに記載**
→「区民（住民）」、「事業者等」、「行政」の3主体がそれぞれの役割を表明する形

1 伏見区の姿

＜第3回策定委員会での意見＞

- ・**外国籍、観光、学生に関する数字**（統計データ等）が見えない。**事業者数、生活者数、年齢層といった基礎ベース**がないと議論しにくいし、哲学論と理想論だけで進めていくことになり、怖い気がする。

⇒主な修正点

- ① 「1－1 伏見区全域の現状特性と課題」の根拠となるデータがわかるよう、ページの右欄に関係するグラフ等を掲載

2 めざすまちづくりの将来像

＜第3回策定委員会での意見＞

- ・「めざす伏見の10年後」で「暮らしの場と（中略）、廃棄が」とあるが、処理施設を固定化することになる恐れがあるので、「**廃棄**」を強調しすぎるのはどうか。

⇒主な修正点

- ① 「暮らしの場と働く場がともにあり、生産、消費、廃棄が地域内で循環し、いろんなことが区内で済む。」を「暮らしの場と働く場がともにあり、暮らしに関わるあらゆるものが地域内で循環し、いろんなことが区内で済む。」に変更

3 「伏見ですむ」実現に向けたまちづくりの取組方針

3－1 伏見区全域の取組方針

(1) 「循環型社会の要を担い、環境共生・低炭素社会の魁をめざすまち」伏見ですむ

＜第3回策定委員会での意見＞

- ・現計画で柱にしている「**環境**」は次期計画にも継承していきたい。

⇒主な修正点

- ① まちづくりの取組目標を「『循環型社会の要を担うまち』伏見ですむ」から「『循環型社会の要を担い、環境共生・低炭素社会の魅をめざすまち』伏見ですむ」に変更
→「循環型社会」だけでは、ごみの発生抑制やリサイクルなど限定的に解釈される可能性があり、より大きな概念であり、京都市環境モデル都市行動計画などでも提唱している「低炭素社会」という言葉を使用し、歩くまちの推進やライフスタイルの変革、環境技術開発、再生可能エネルギーの活用など、より広い意味を持つことを示した。
- ② 1つ目の取組方針のタイトルを「・・・常にエコロジーを意識したライフスタイルの実践をめざします。」から「・・・「DO YOU KYOTO?」を合言葉に、環境への負担を減らすライフスタイルの実践をめざします。」に変更
→「DO YOU KYOTO?」は市があらゆる場面で使用し、浸透を図っている合言葉であり、置き換えることが適当と判断
- ③ 2つ目の取組方針を「私たちはゴミのない美しいまちづくりをめざします。」から「私たちは公共交通機関を守ることを意識しつつ、「歩いて楽しいまち」づくりをめざします。」に変更（修正前の1つ目の取組方針の項目「公共交通機関の利用推進（と利便性向上に向けた取組推進）」と5つ目のまちづくりの取組目標の2つ目の取組方針の項目「交通結節の強化と交通不便地域等におけるコミュニティ交通の導入の推進」を統合して新たな取組方針とした。）
→メリハリを付けるため、一般的で経常的な「まちの美化」より、市として重点的に取り組んでいる「歩くまちの推進」を強調すべきと判断
- ④ 3つ目の取組方針「私たちは水（河川）、緑（里山）と共生するまちを次代に継承します。」に都市近郊の豊かな自然を環境学習の場として活用することを明記

(2)「自然と歴史がいきづく魅力を発信するまち」伏見ですむ

<庁内調整での意見>

・「学ぶ」という視点あればよい。「学びのまち伏見」などはどうか。

⇒主な修正点

- ① 1つ目の取組方針「私たちは地域の魅力を知り、育み、伝えます。」の「知り」を「学び」に変更
→「知る」よりも、より能動的で深い理解につながる「学ぶ」という言葉が適当と判断

(3)「伏見力を活かし、新しい京都を創造するまち」伏見ですむ

<第3回策定委員会での意見>

・コミュニティバスのような地域住民が参加するコミュニティビジネスの支援（創業支援、継続のためのサポート）が大事。

<第3回策定委員会後の意見（意見用紙による）>

・観光情報のネットワーク化、それらの情報発信、観光ボランティアの育成・登録などの積極的な推進が必要。（→例えば、「観光ボランティアのネットワーク化と観光客の要請に応えられる仕組みづくり」【→P13の④の具体的な取組例に「『地域の語り部』の発掘とネットワーク化」を掲載】、「駅周辺への観光案内所（大型テレビとリビングPCの設置及び観光ボランティアの常駐）の開設」【→P14の④の具体的な取組例に「駅等での観光案内の充実」を掲載】、「伏見の観光情報HPの一元化」【→P13の④の具体的な取組例に「観光情報の共有化と発信力の強化」を掲載】など）

<庁内調整での意見>

- ・「観光」の記載がおとなしい。**観光を伏見のエンジン産業にする**ぐらいの意気込みがほしい。
- ・「育む」だけでなく、「**学ぶ**」があればよい。「学びのまち伏見」などはどうか。

⇒主な修正点

① **取組目標の説明で、『伏見ですむ』人と商店街や観光と連携』としていたのを『伏見ですむ』人と産業各界の団体等が連携』に変更**

→より幅広い業種が連携することでより大きな効果が発揮され、まち全体として活性化すると判断

② **2つ目の取組方針「私たちは地産地消のまちづくりをめざします。」の「●身近な都市型農業の振興」で「農地の保全・活用」を明記**

③ **4つ目の取組方針「私たちは伏見の豊富な観光資源のネットワーク化を進め、多様な魅力のある観光をめざします。」の取組項目に「●「学ぶ」による伏見の魅力の再発見・発信」を追加**

→質の高い観光を実現するには、「おもてなし力」が大切であり、区民自身が伏見のことを学ぶことが「おもてなし力」の向上に貢献するとともに、区民の地域への誇りの醸成にもつながると考えたため、次の取組項目「●観光客の受け入れ環境の充実」から独立させた。

(4) 「地域のコミュニティ力が人を育み、すこやかな暮らしを支えるまち」伏見ですむ

<第3回策定委員会での意見>

- ・(再掲) コミュニティバスのような地域住民が参加する**コミュニティビジネスの支援**(創業支援、継続のためのサポート)が大事。
- ・向島地域ではこれからの中国帰国者の人口が増える。**中国帰国者にとっては言葉の壁が最も大きい**ので市のフォローが必要である。【→P17の④の具体的な取組例に「外国語表記のガイドを配布」,「中国帰国者の地域活動への参画支援」を掲載】
- ・向島の証明書発行コーナーに**中国語が理解できる職員を配置**するなども含めて対応してもらいたい。
- ・現計画の策定時より明らかに「高齢化が進行している」との認識が強く出ている。
- ・大学内でのアンケートによると、今の若者は近所と親しくなるきっかけを求めている一方、淡い付き合いを望んでいる。どんな働きかけがあれば地域活動・行事に参加するかについての回答なども挙げている。「温かい温もりの伝わる伏見区」の素材にしてもらえれば。【→P16の②の2つ目の取組項目に「**●大学と地域との連携促進**」を追加】

- ・**自然を生かした運動公園**の設置(他行政区からも足を運びたいような魅力あるもの)

<庁内調整での意見>

- ・**大学を活かした地域活性化**は効果が大きい。大学についての記載がもう少しほしい。
- ・(再掲)「育む」だけでなく、「**学ぶ**」があればよい。「学びのまち伏見」などはどうか。

⇒主な修正点

① **2つ目の取組方針「私たちは市民活動を促進する環境を整えていきます。」の取組項目**

「●市民活動団体の連携促進と活動支援」の1つ目の段落を「区民の参加意欲を活動につなげる」趣旨の文章に変更

→活動している団体への支援だけではなく、退職した世代の地域活動への参加をはじめ、一人ひとりの公益活動への参加意欲を活かすことが今後の市民活動の活性化につながると判断したため。

② 2つ目の取組方針「私たちは市民活動を促進する環境を整えていきます。」に新たな取組項目として「●大学と地域との連携促進」を掲載

→第2回委員会でも大学と地域の連携をもっと促進すべきという議論が展開され、そのニーズの高さも確認されたが、地域側の受け皿の問題や大学の窓口の煩雑さ等を解消するための体制（システムやコーディネート）の面が課題として挙げられたため、新たに項目を起こした。

③ 3つ目の取組方針「私たちは地域の福祉力、教育力」を高めていきます。」の取組項目「●子育て環境の充実、子どもを地域で育む仕組づくり」の説明に、保育所や幼稚園、小学校等のみならず大学等の高等教育機関と地域や家庭の協力を盛り込んだ。

→生徒や学生が子育てに関わることの重要性・有効性と、専門的知識を活かすという見地から追加

④ 4つ目の取組方針「私たちは多文化共生・多世代交流を推進していきます。」の取組項目「●多文化共生社会の実現に向けた交流の促進」の説明に外国籍の方や外国からの帰国者の方も地域の担い手になっていただくという視点や、相互理解や孤立化防止などの言葉を追加した。

⑤ 4つ目の取組方針「私たちは多文化共生・多世代交流を推進していきます。」の取組項目名を変更（「緑豊かな区民のスポーツやレクリエーションの場の整備」から「区民がスポーツやレクリエーションを楽しむ環境づくり」に変更）するとともに、「老若男女が気軽に」という言葉を追加

→緑豊かで自然を感じる空間は大事であるが、まちなかの公園や体育館なども想定できるため、「緑豊かな」は削除した。また、必ずしも公園や施設等を整備しなくてもその環境を充実させる方策があると考えられるため「整備」を「環境づくり」に変更した。

(5)「安心安全で、人にやさしい便利なまち」伏見ですむ

＜第3回策定委員会での意見＞

- ・天ヶ瀬ダム再開発による長期間の大量放水、高水位は宇治川堤防を危険にさらす恐れがある。再開発が計画どおり進められると伏見の「水と緑」は生かされるのかどうか、専門的見地から意見を聞きたい。【→P19の①の具体的な取組例に「河川や水路の防災対策の推進」を掲載】

⇒主な修正点

特になし

3-2 地域別の取組方針

⇒主な修正点

- ① 地域名「(1) 旧伏見地域」をより正確に言い表すため「(1) 旧伏見市・竹田・桃山

地域」に改めた。

- ② 「まちづくりの合言葉（案）」を「まちづくりの取組目標＜合言葉＞」に改めた。
- ③ 「まちづくりの取組目標＜合言葉＞」の次に当該地域の現況（動き）や「合言葉」を敷衍する今後の方向性に関する記述を簡単にまとめた。
- ④ （３）久我・羽東師地域の「まちづくりの取組目標＜合言葉＞」を「愛着をもって一生住める 緑豊かな誰もが好きになれるまち」から「多世代が住む 緑豊かな誰もが好きになれるまち」に変更。
→円卓会議で多かった意見「若い人が地域から出て行かず3世代が住めるまちにしたい」をより正確に言い表す言葉として「多世代が住む」を採用
- ⑤ （６）醍醐地域の「まちづくりの取組目標＜合言葉＞」を「みんなで支えあい安心安全で、イキイキと暮らせるまち」から「みんなが参加し、地域で支えあう 希望と期待が満ち溢れるまち」に変更。
→「地域で支えあう」ことを明確にするとともに、より前向きで発展的な表現に改めた。
- ⑥ （１）旧伏見市・竹田・桃山地域の取組方針「●暮らしの中に息づく身近な自然や歴史・文化を活かしたまちづくり」の「・魅力的な水辺環境づくり」の例示として挙げた「東高瀬川への桜等の植樹」を「東高瀬川への小径整備」に改めた。
→国の東高瀬川整備検討会では、桜の植樹は検討されていないため。
- ⑦ 各地域の取組方針の文言をよりの確な表現に改めた。

4 重点戦略「融合プロジェクト」

＜第3回策定委員会での意見＞

- ・多文化共生社会の実現は融合プロジェクトに掲げる方向でお願いしたい。【→多文化共生は分野別の取組方針に記載（P17（4）-④）。融合プロジェクトには、多文化共生も含めた様々な交流の基盤となる「地域情報共有ぶらっとフォーム」（融合プロジェクト3「絆づくり・「伏見力」増進プロジェクト」）を掲げた（P29）。】
- ・住民アンケートでは、3つの地区が交通網、残り3つの地区が高齢者福祉を重要課題としており、大学生など若い人は歴史や環境都市という視点がある。重点戦略（融合プロジェクト）を考える際に何を根拠にするのかわかりにくい。
- ・融合プロジェクトの考え方は、優先的に解決すべき課題解決型のものと、次の世代にとって大事な、新たな可能性を開くような発想の両方が必要。
- ・伏見区が市の中で果たす役割という観点から、外に対して伏見をアピールすることも必要。
【→融合プロジェクトの①と②は最終的には区外に発信することを想定（P27、28）。】

⇒「融合プロジェクトの内容」は素案（p27～29）参照